

# 奈良県立医科大学 学報



学長 吉田 修

2002  
MAY

vol. 1

## CONTENTS

『学報』の発刊にあたって	表紙
医科大学・看護短大入学式	2
医師国家試験、看護師・助産師国家試験結果	2
新任教授の挨拶	3
看護短期大学の4年制化に向けて	4
中島佐一賞受賞	5
新任部局長の挨拶	6
平成14年度予算	8
退任教授の挨拶	9
科研費内定状況・学位授与状況・対ガン協会研究助成	10
人事	11

## 『学報』の発刊にあたって

人が二人以上おれば、意見が異なり、考えが違ふのは当然と思わねばならない。ましてや大学のように多くの人々の集まり、しかも自重自敬を旨とする組織ではそれはむしろ必然と考えるべきであろう。しかし、共通の理想に少しでも近づくために、意見を統一し、一つの結論を導き出さねばならないことが多い。そして、真摯な議論を通じてこれを行うところが大学であり、良識の府である。この際、極力避けねばならないことがある。それは不十分な、あるいは不確実な情報、または誤解に基づく意見の相違である。そのような時の議論は、非生産的であるばかりでなく、誤った結論になる危険がある。

本学は創設以来50有余年の星霜が移り、その間いろいろな試練がありドラマがあり、歴史が刻まれていった。そして現在、時代の大きな「うねり」のまっただ中にある。われわれはいま懸命になって、大学や医学・医療がその「うねり」の中に飲み込まれてしまわないよう努力をしている。本学の医学教育改革、大学院改革、看護短大の4年制大学化、外部評価、病院の経営改善等々、重大な課題への取り組みがそれである。

われわれは今こそ、十分なそして正確な情報に基づき現状を把握し分析した上で、本学の将来を真剣に考え、冷静に議論し、さらなる発展に向けて協力しなければならない。

このような意味においても『学報』によせる期待は大きい。

# 医大、看護短大入学式

## 医大入学式 (平成14年4月10日)

奈良県立医科大学入学宣誓式が、本学大講堂にて執り行われました。

吉田学長より「良き習慣を身につけること、感性を磨くこと」との式辞があり、入学生代表が、「医師としての人格の涵養と医学に必要な知識の習得に努め、本学の学生として誇りを持って行動すること」と宣誓し入学生95名が署名を行いました。



## 看護短大入学式 (平成14年4月9日)

看護短期大学部では看護学科80人、専攻科助産学専攻14人が入学しました。

吉田学長はあいさつで、短大校舎南玄関に飾られている『恕』の書について触れ、その深い意味と『ほほえみの大切さ』について、わかりやすい感動的な言葉で話されました。

続いて看護学科・専攻科助産学専攻の新生代表が、本学において「看護や助産に関する専門的知識と技術を身につけ、自己の行動に責任をもつ」ことを、それぞれに希望のあふれる言葉で宣誓しました。

## 医師国家試験合格状況

(平成14年4月25日発表)

### 本学の状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
14年3月卒業	108	100	92.6
既 卒	9	5	55.6
計	117	105	89.7

### 平均合格率

全 国	国 立	公 立	私 立
90.4	92.1	94.5	87.4

## 看護師・助産師国家試験合格状況

(平成14年3月29日発表)

### 本学の状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
看 護 師	80	71	88.8
助 産 師	11	11	100.0

### 平均合格率

	全 国	大 学	短 大	専門学校
看 護 師	84.3	96.1	88.6	86.6
助 産 師	88.3	86.9	88.7	91.5

# 教授就任挨拶

## 内科学第一講座

齋藤 能彦 (平成14年2月1日付)

私は、昭和56年本学を卒業後、京都大学で循環器学、特に「心不全成因の解明とその臨床応用」に関して研鑽を深めてまいりました。

第一内科学教室の使命は、循環器病・腎臓病とそのリスク管理に卓越した技術と知識を持つ医師・さらに医科学者を育成することと確信しております。そのために教育・診療・研究の有機的なシステムを作り上げると同時に、病診・病病連携を強化し地域における役割も果たしたいと考えております。もちろん病める人間の幸せを最優先する医師であることは第一義です。好きな言葉は「なせばなる」「日々新たなり」「人は城」。



## 外科学第一講座

中島 祥介 (平成14年2月1日付)

平成14年2月1日付けで、第一外科学講座の教授を拝命致しました。皆様方のご高配を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。責任の重大さに身の引き締まる思いであります。

昭和50年に奈良県立医科大学を卒業、第一外科学講座（消化器・一般外科、小児外科）に入局し、消化器外科を専門分野として参りました。二十一世紀を迎えた今、外科学は革新的な変化を遂げようとしております。

今後は、臨床・研究・教育に一貫した基本姿勢としてScienceとArt、そしてHumanityを目標とし、低侵襲手術、機能温存手術、外科と分子生物学的手法の融合、移植医療、再生医療を追究して参りたいと存じます。

微力ではありますが、志を高く持って精一杯努力する所存であります。奈良県立医科大学の皆様方におかれましては、一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



## 英語

澤浦 博 (平成14年4月1日付)

この度、伝統ある本学の英語教授に就任させていただきましたことを大変光栄に存じております。私はこれまで山口大学、京都工芸繊維大学、そして大阪女子大学で教鞭を執ってきました。本学では医療英語と、国際コミュニケーションの道具としての英語を学生にしっかり習得させるつもりです。

英語教育の他に、入試委員、教務委員、広報委員、学生委員といった各種委員会委員を務め、大学運営の一端を学んでもきましたので、この経験を十分活かして、微力ながらも本学の発展に寄与したいと思っております。



## 解剖学第二講座

和中 明生 (平成14年4月1日付)

平成14年4月1日付けで、山本浩司教授の後任として解剖学第二講座教授に就任いたしました。多くの方々から御高配と御支援を賜りましたことをここに厚く御礼申し上げます。

主たる研究テーマは神経系の発生分化及び損傷応答のメカニズム解明で、基礎医学ではありますが将来的な臨床応用にも通ずるような研究を行いたいと考えております。はなはだ微力ではありますが、伝統ある奈良県立医科大学の発展のために全力を尽くす所存ですので何卒御指導の程お願い申し上げます。



## 口腔外科学講座

桐田 忠昭 (平成14年4月1日付)

平成14年4月1日付けをもちまして、口腔外科学講座の教授を拝命いたしました。諸先生方のご高配とご支援に厚くお礼申し上げます。

口腔外科学とは、口腔、顎、顔面領域の疾患を専門とする科ですが、なかでも私の専門としますものは、悪性腫瘍であります。特に難治性がんであります進行口腔がんに対する治療には、未だたくさんの方が残っております。口腔の基本機能を損なうことなく、治療成績を上げることができるよう、その克服に向けて、臨床面のみならず臨床に直結した基礎的研究を行ない、微力ながら貢献させていただきたいと思っておりますので、よろしくお礼申し上げます。



# 看護短期大学の 4年制化に向けて

平成13年11月に開催されました医科大学、看護短期大学の教授会で、看護短期大学の4年制化について提議され、医学部看護学科として設置する方向で了承されました。近年の医学・医療の高度化専門化をはじめ、高齢社会、疾病構造の変化及び社会的環境の変貌など、保健医療に対する県民ニーズも多様化し、より高次なものへと変化してきています。

看護の分野においても、地域を問わず、より高度で専門的な看護の要請に加えて、保健・福祉領域におけるニーズも、専門職として果たすべき役割が拡大してきています。

本学では、こうした看護のニーズに応えるため、平成8年には看護専門学校を看護短期大学に昇格させ、高度な専門知識・技能・豊かな人間性を備え、幅広い視野で問題に立ち向かえる人材を養成してきましたが、今後は更に充実させると共に、医学と看護学におけるサイエンス(科学)とアート(技)を兼ね備えた、感性豊かな人材育成を目指して4年制化の検討を始めました。

平成13年12月に設置されました検討委員会で、5回の審議を経て、下記の基本方針を策定し、本年度4月開催の両教授会で承認されました。

[基本方針の抜粋]

## 1 設置目的及び基本理念

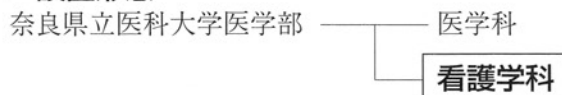
### (1) 設置目的

- ・近年の少子高齢化の進展と医療の高度専門化に対応して、質の高い看護職員を養成
- ・今後の看護の果たすべき役割の拡大と看護学の発展により、地域住民の健康を増進
- ・看護学の分野における専門的な研究を行うとともに、指導的役割を果たせる人材の育成

### (2) 基本理念の5つのキーワード

- 【看護実践能力の継承発展】 【豊かな心の涵養】 【国際感覚の育成】
- 【医学教育との連携】 【地域社会への貢献】

## 2 設置形態



現在、平成16年4月開学に向けて、委員会の名称を4年制化検討委員会から医学部看護学科設置準備委員会に改めると共に、具体的な検討を行うための部会を設置し、5月から始動しました。委員会及び部会の委員は下記のとおりです。

### ◎医学部看護学科設置準備委員会 委員 (12名)

吉田学長、吉原学生部長、吉岡病院長、森川短期大学部長、岸本教授(精神医学)、伊藤短期大学部学科長、脇田短期大学部専攻科長、玉田教授(短大)、安川事務局長、森本看護部長、上森医務課長、瓜生医大・県立病院室長

### ◎同 総務部会員 (5名) … 主として管理運営体制の検討を行います。

吉岡病院長、森川短期大学部長、伊藤短期大学部学科長、安川事務局長、森村総務課長

### ◎同 教務部会員 (12名) … 主としてカリキュラムの検討を行います。

森川短期大学部長、脇田短期大学専攻科長、玉田教授(短大)、森本看護部長、豊田一般教育部長、伊藤教授(物理学)、東野教授(解剖学第一)、平尾教授(泌尿器科学)、江上教授(短大)、今井教授(短大)、飯田教授(短大)、松本管財課長

### ◎同 入試部会員 (7名) … 主として入学試験方法の検討を行います。

吉原学生部長、岸本教授(精神医学)、伊藤短期大学部学科長、上田助教授(短大)、池邊講師(短大)、勝井講師(短大)、北川学生課長

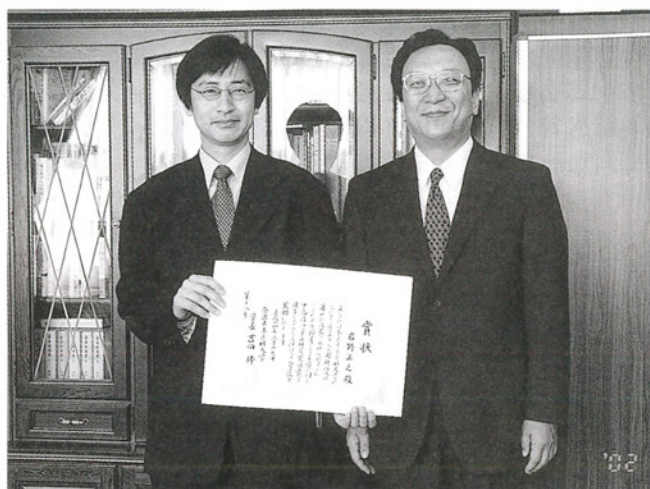
## 岩野正之先生・浦西龍之介先生が受賞

13年度は、受賞候補と呼ぶにふさわしい方ばかり11名の応募があり、その中で、内科学第一講座の岩野正之学内講師と外科学第二講座の浦西龍之介助手が受賞し、3月19日学長室において授与式が行われました。

岩野学内講師は、「腎疾患の進展機構に関する研究」をテーマに、腎生検標本を用いた臨床的研究に加えて、常に最先端の分子生物学的技法を用いた先駆的な研究を行い、腎疾患の進展機序の解明に献身的に取り組み、すでに新規遺伝子のクローニングなど多くの優れた業績を残しておられます。

また、浦西助手は、「硬膜動静脈瘻における血管成長因子の発現について」をテーマに、硬膜動静脈瘻の原因や病態生理を部分的に解明しようとするもので、本研究により血管成長因子がその病巣進展に役割を担っていることが判明しました。

両先生におかれましては、今後ますますのご活躍が期待されます。



▲ 内科学第一講座 岩野正之学内講師 (左)



▼ 外科学第二講座 浦西龍之介助手 (左)

### 中島佐一学術研究奨励賞とは？

この賞は、故中島佐一名誉教授の遺族から受けた寄附を基金として、平成5年度に設けられたもので、奈良県立医科大学において医学の学術研究に優れた業績をあげた若手教員（原則として申請時に45歳未満）に対して授与され、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

これまで19名の先生方が受賞されました。受賞者の方たちは、現在教授が6名（学外転出2名を含む）、助教授が4名で、転出された方も含め全員受賞者にふさわしいご活躍をされています。この賞が若手研究者の登竜門になることを願っておりますので、14年度も大いに応募していただきたいと思っています。

(14年度は賞金ももっと上がるかも・・・)

— 奨励会事務局より —

# 部局長就任挨拶

## 附属病院長

吉岡 章 (小児科学講座 教授)



1. 県民から信頼される病院を目指します。県民の信頼を回復し、県民から愛され、かつ、県民に開かれた病院づくりに努めます。
2. 医科大学附属病院としての機能強化に努めます。医科・看護学生、医師・ナースへの高水準の教育の場を提供し、臨床研究と学術推進に努めます。各診療科の特定機能強化を推進すると共に救急医療体制の整備と改善を計ります。多様なニーズに対応するため、中央部門を強化します。
3. 病院の健全経営をすすめます。昨年度までの経営改善の成果を引き継ぎ、その推進と調整を計ります。  
皆様方の御支援を切にお願い申し上げます。

## 附属図書館長

中嶋敏勝 (薬理学講座 教授)



図書館長を2期勤める事になりました。

1 期目には電子ジャーナルの本格的稼働、インターネットによる本学所蔵図書検索、和雑誌特集検索、相互貸借における文献複写の申込みを可能にしました。

2 期目には土曜日・夜間の開館、年々減少する雑誌の確保、図書館を大学の総合情報センターと位置付け、チュートリアルを含む学生に対する教育機能、ネットワークを含む学内・外の研究者・臨床医・コメディカルスタッフなどに対する教育機能、計算機・オーダリングシステムを含む研究・診療的機能、入院患者・地域住民への医療情報の提供などを考慮した総合情報センターの設置などの実現に向かって頑張ります。

宜しく御支援の程お願い致します。

## 学生部長

吉原 紘一郎 (生化学講座 教授)



平成14年度より学生部長を務めさせて戴く事になりました。大学制度の大変換期であり、医学教育も大きく変わりつつあるこの時期に、皆様と共に学長を補佐し、大学の将来を誤らないよう任務を果たしたいと願っております。

任務の遂行にあたりましては、関連諸委員会等との連携を密にし、内外の情報を皆様と共有すると共に仕事の分担を明確にすることによって多くの方々の御協力をお願いしたいと思っております。

又、カリキュラム等諸計画の実施にあたりましては、計画に携わった者は、私自身も含めて、その現状を現場で把握し、その後の改革に資するように勤めたいと思います。

## 附属がんセンター所長

大石 元 (腫瘍放射線医学 教授)



今、本学では吉田学長のもと全学をあげて、将来における本学の存続を見据えての幾つかの重要な課題に取り組んでおります。

大げさな表現をしていると思われる教職員の方々がおられるかもしれませんが、学長が示されているいずれの課題も、今、成就にすべき非常に重要なものであります。このような時期に、がんセンター所長を拝命し光栄であります、身の引き締まる思いでもあります。学長のもと、各部局長ならびに各教授、特に若い方々のご意見をいただきながら、本学の発展のため真摯な態度で臨む所存であります。

一方、がんセンターにつきましては、本学においてがん研究、がん診療に先端的なところで活躍しておられる研究者の皆様方と密なる議論を得た上で、がんセンターの機構が核となり、これからの時代に即応した新たな研究施設へと発展できるよう取り組んでいく所存であります。

## 一般教育部長

豊田 剛 (哲学 教授)



4月1日付けで一般教育部長に就任いたしました。一般教育の存在意義は、文科理科を含めいろいろな科目を万遍なくまた幅広く勉強することによって、広い視野で「全体を考える」という発想や能力を身につけることにあります。

個々の専攻分野に進むにつれ、細分化は避けられませんが、その場合でも「全体」という観点からものを見る姿勢が大事であることは何ら変わりません。それが「教養」です。一般教育の一年半をその基礎づくりのために有効に使えるよう、環境づくりをすることが自らの責務であると考えています。

内外とも難問題山積みの昨今ですが、"dum spiro, spero" の精神で頑張りたいと思いますので、どうかご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 総合研究施設部長

米増 國雄 (公衆衛生学講座 教授)



この度、皆様のご厳格なご選考により、総合研究施設部長に就任させていただくことになりました。

診療、教育、研究は、医科大学の必須三要因であることは申すまでもありません。当総合研究施設は、このうちの一要因である医学研究の実践の場を提供するべき責務を負っています。21世紀における当研究施設の賢明な拡充・発展のためには、常に、医学研究の質的・量的変容・向上を見越した研究設備のありかたを熟慮するとともに、地域住民の了承が得られる環境作りを顧慮することが、喫緊の課題であると考えています。これらの課題を実行していくためにも、本学教職員の皆様の一層のご鞭撻を期待しています。

## 看護短期大学部・学部長

森川 肇 (産婦人科学講座 教授)



このたび、学部長をもう一期担当するようにご指命を賜りました。光栄に思いますとともに、精一杯努力する所存でございます。

看護短期大学は全国的なレベルで急速に4年制に移行しつつあり、本学においても平成16年春を目指して準備が進められています。奈良県立医科大学看護短期大学部は、現在は医学部とは別の独立した大学ですが、4年制になる際には看護大学あるいは看護学部となるには諸般の事情から難しく、医学部の看護学科として合併することになりそうであります。

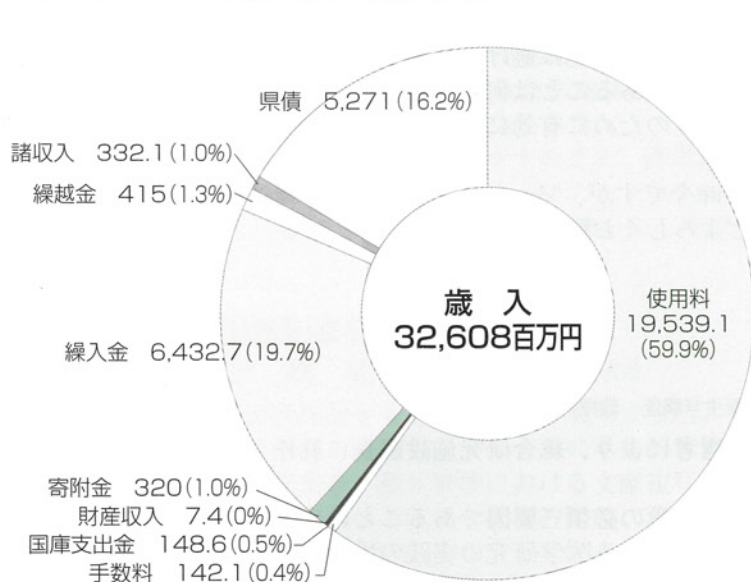
医療に協力して携わる医学科と看護学科が同じ医学部内に統合されるのは望ましいことではありますが、一方、かなり異なる教育システムを持つ両学科の統合には困難な点が多々あります。近日中に統合に向けた具体的な作業が始まりますが、これまでの経験と知識を生かして両学科の統合がスムーズに進むよう努力したいと考えています。

皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 平成14年度

## 奈良県立医科大学費特別会計予算

平成14年度奈良県立医科大学費特別会計予算については、総額326億8百万円（前年比13.6%増）で平成14年3月25日の2月定例奈良県議会最終日に成立しました。その概要は下図のとおりです。

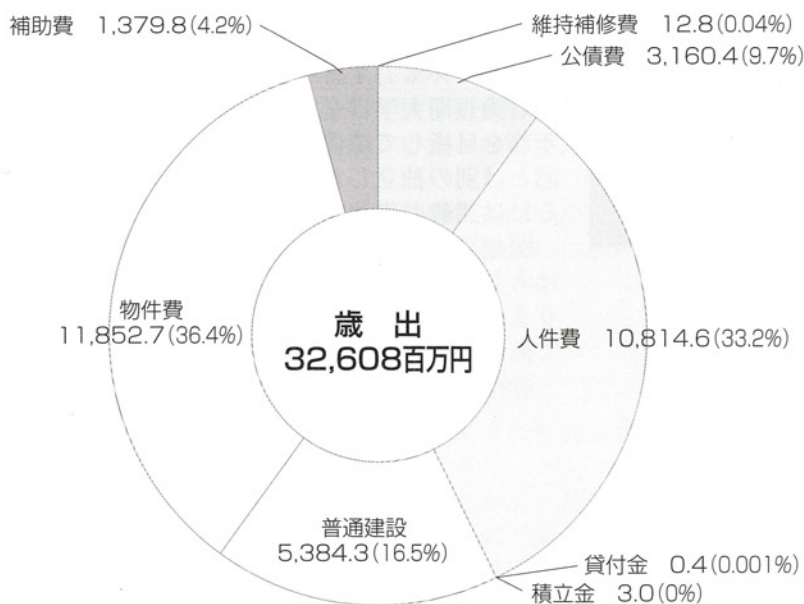


科目名及びその主たる項目	予算額
使用料	19,539.1
授業料	416.3
病院使用料	19,105.7
行政財産使用料	17.1
手数料	142.1
国庫支出金	148.6
財産収入	7.4
寄附金	320.0
繰入金	6,432.7
繰越金	415.0
諸収入	332.1
受託事業収入	236.0
雑入	95.7
その他	0.4
県債	5,271.0
<b>合計</b>	<b>32,608.0</b>

### (参考)

病院使用料：いわゆる診療報酬で平成13年度予算に対し、2.8%増収を見込んでいる。  
 手数料：主なものは、大学の入学料、附属病院の診断書等の証明手数料。  
 繰入金：県の一般会計から財源補填のために支出されるもの。  
 雑入：主なものは、研究生、専修生の受講料。  
 県債：第二本館（C病棟）の建設工事費に係る借入金等。

科目名及びその主たる項目	予算額
公債費	3,160.4
人件費	10,814.6
貸付金	0.4
積立金	3.0
普通建設	5,384.3
病院備品整備	450.0
第二本館整備	4,781.0
周産期医療施設	40.0
その他	113.3
物件費	11,852.7
医療材料費	6,113.5
診療材料費	2,311.6
医療情報システム	401.3
講座研究費	194.5
その他	2,831.8
補助費	1,379.8
維持補修費	12.8
<b>合計</b>	<b>32,608.0</b>



### (参考)

公債費：過去に借り入れた県債の元利償還金。  
 積立金：大学整備基金の運用収入（利息）を同じ基金に積み立てるもの。  
 普通建設：第二本館（C病棟）等の建設事業費。  
 物件費：人件費、維持補修費、補助費等以外の経費の総称で、委託料等がある。  
 補助費：主なものは、奨励会交付金、各種協会等の負担金、臨床研修医等への謝金等。



## 退任教授挨拶

口腔外科学講座

名誉教授 杉村 正 仁

### 退職挨拶

本年3月31日をもって無事定年退官、大学生活に一応の終止符をうつことになりました。長くて短い40年間でした。前半は主として大阪大学、後半は奈良医大で過ごしたことになります。過ぎ去った奈良医大での在職生活を振り返りますと、無我夢中で年月を重ねたのみで、為したことがあまりにも少なく、恥じるばかりであります。皆さんからの絶大なご指導、ご支援により、わずかであっても何とか次世代に残す有形無形の教室の財産が出来、それを桐田



▲ 最終講義（平成14年3月14日）

教授にそっくりそのままバトンタッチ出来ることを大変うれしく思っています。どうか今後とも今までに勝る皆さまのご指導、ご鞭撻をわが口腔外科学教室にお寄せいただきたく存じます。

解剖学第二講座

名誉教授 山本 浩 司

### 定年を迎えて

奈良医大で助手を拝命して以来36年、永らくお世話になりました。3月の奈良医大主催の公開講座および最終講義では「21世紀への解剖学の継承」と題して話を致しました。

私の人生の大半はやはり人体解剖学の教育でありました。昭和48年教授就任当時、人体解剖用の献体数は不足し、高楠教授と分担して、県内の各施設に奈良医大白菊会（昭和46年10月2日発足）の趣旨説明に訪問するのが夏休み期間中の恒例でありました。

「医学及び歯学の教育のための献体に関する法律」（献体法）が昭和58年に成立して、献体の意志（生前登録）の尊重がご家族に理解され、献体数が充足し、献体者のご遺志を尊重する人体解剖実習を行うことが出来るようになったのは幸せでありました。



▲ 私が担当した最後の人体解剖実習の終了時、3学年の学生と共に

## 平成14年度

# 科学研究費補助金の内定状況

平成14年度の文部科学省科学研究費補助金の内定状況は次のとおりで、平成13年度に比べ件数、補助金額ともに増加しました。

**内定件数 77件 (73件) 内定金額14,854万円 (13,650万円)**

( )内は平成13年度

### 内定者

〔特定領域研究(2)〕：大西 武雄      〔基盤研究(A)(1)〕：大西 武雄

〔基盤研究(B)(1)〕：細井 裕司

〔基盤研究(B)(2)〕：大西 武雄、高木 都、吉川 正英、石谷 昭子、榊 壽右、平尾 佳彦、古家 仁

〔基盤研究(C)(1)〕：御輿 久美子

〔基盤研究(C)(2)〕：大崎 茂芳、井手 武、秦野 修、芳賀 敏実、山下 勝幸、豊田ふみよ、吉川 隆章、小西 登、喜多 英二、勝井 則明、車谷 典男、羽竹 勝彦、國安 弘基、森 俊雄、吉治 仁志、上野 聡、金廣 裕道、谷口 繁樹、坂口 秀仁、高倉 義典、矢島 弘嗣、森川 肇、中 宏之、杉本 充彦、嶋 緑倫、高橋 幸博、岸本 年史、宮川 幸子、波床 光男、石橋 道男、植村 天受、趙 順規、家根 旦有、川口 昌彦、桐田 忠昭、川上 正良、山本 一彦、村尾 佳則、岩田 和朗、三井 宜夫

〔萌芽研究〕：大西 武雄、高木 都、吉川 正英、中島 祥介、高橋 昭久

〔若手研究(B)〕：杉岡 美保、竹中千香子、亀岡 正典、石田 英和、島田 啓司、王寺 雪輝、齊藤 功、藤本 平祐、長尾 美津男、池田 直也、小山 文一、内藤 洋、梅影 秀史、井上 雄一郎、森川 将行、根來 秀樹、桑原 理充、岡島 英二郎、村井 孝行、玉本 哲郎、松本 雅則

## 学位授与の状況

(授与日：平成14年3月25日)

平成14年3月20日に平成13年度5回目の学位論文の本審査が行われ、次の15名に学位が授与されました。

〔甲〕(博士課程を修了した者) 5名

米田 諭 (生理学第二)、下川原 立雄 (病理学第一)、中島 弘司 (病理学第一)  
佐々木 弥寿延 (内科学第一)、濱野 一将 (内科学第一)

〔乙〕(博士課程を修了したものと同程度以上の学力があると確認された者) 10名

岸 隆司 (生理学第二)、高瀬 英司 (内科学第一)、南 繁敏 (内科学第一)  
森本 守 (整形外科)、塚本 光雄 (眼科学)、丘田 英人 (泌尿器科学)  
池内 正子 (口腔外科学)、高山 賢一 (口腔外科学)、俵本 眞光 (口腔外科学)、  
山中 康嗣 (口腔外科学)

## (財)奈良県対がん協会研究助成の決定

(平成14~16年度)

本助成金については、(財)奈良県対がん協会からがん研究助成事業として年額30万円を3ヶ年にわたり2教室に助成されるもので、今回は10教室から申請があり、部局長会員により次の2教室が選考されました。

- 病理学第二 講師 中村 光利  
ヒト癌における遺伝子プロモーター領域のメチル化検索と治療への応用
- 外科学第三 助手 高濱 誠  
非小細胞肺癌におけるangiopoietin-1/TIE-2の発現と予後との相関に関する研究

# 人 事

〔4月1日付〕

## 附属病院副院長発令

三井 宜夫 (中央手術部 教授) 岡本 康幸 (中央臨床検査部 教授)

## 附属病院中央部門部長発令

集中治療部長 古家 仁 (麻酔科学 教授)  
中央放射線部長 吉川 公彦 (放射線医学 教授)  
リハビリテーション部長 高倉 義典 (整形外科学 教授)  
中央内視鏡部長 福井 博 (内科学第三 教授)  
透視部長 平尾 佳彦 (泌尿器科学 教授)  
病院病理部長 市島 國雄 (病理学第一 教授)  
救命救急センター長 奥地 一夫 (救急医学 教授)  
中央材料室長 三井 宜夫 (中央手術部 教授)  
超音波診断室長 大石 元 (腫瘍放射線医学 教授)  
医療情報室長 中村 忍 (総合医療・病態検査学 教授)

## 総合研究施設部施設長発令

組換えDNA実験施設長 石坂 重昭 (寄生虫学 教授)

## ○各種委員会委員の改選 教授会で次のとおり委員の改選が承認されました。(選任された委員のみ記載)

〔4月1日付〕

### ラジオアイソトープ委員会委員

中嶋 敏勝 (薬理学 教授) 岩田 和朗 (腫瘍放射線医学 講師)

### 学生部委員会委員

豊田 剛 (哲学 教授) 喜多 英二 (細菌学 教授)  
平尾 佳彦 (泌尿器科学 教授)

### 学生部委員会カリキュラム部会委員

喜多 英二 (細菌学 教授) 豊田 剛 (哲学 教授)  
平尾 佳彦 (泌尿器科学 教授) 山下 勝幸 (生理学第一 教授)  
車谷 典男 (衛生学 教授) 福井 博 (内科学第三 教授)  
中村 忍 (総合医療・病態検査学 教授)

### 学生部委員会生活部会委員

東野 義之 (解剖学第一 教授) 高木 都 (生理学第二 教授)  
吉川 公彦 (放射線医学 教授) 三井 宜夫 (中央手術部 教授)  
奥野 義記 (数学 助手)

### 入試委員会委員

大崎 茂芳 (化学 教授) 車谷 典男 (衛生学 教授)  
岸 本年史 (精神医学 教授)

### 同和対策委員会委員 (人権施策委員会への名称変更予定)

本田 陽太郎 (ドイツ語 教授)

### 渉外委員会委員

吉原 紘一朗 (生化学 教授) 榊 壽右 (外科学第二 教授)

### ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員

中村 忍 (総合医療・病態検査学 教授)

### 将来計画委員会委員

榊 壽右 (外科学第二 教授)

### 研究用コンピュータネットワーク運営委員会委員

車谷 典男 (衛生学 教授)

〔4月9日付〕

### 中央標本室委員会委員

和中 明生 (解剖学第二 教授)



## 編 集 後 記

この度、新学報が発刊されることになりました。

この学報は、本学がどの方向に動いているのか、今後どう動いていこうとしているのかを“見える”ようにすることにより、本学の教職員が本学の情報を共有し、大学人としての意識の高揚と大学の更なる発展を図ることを目的に年4回発行するものです。

学報の発行については、3月の教授会で承認いただき、私たちが編集委員として選任されました。創刊号は5月に発行するというので、今回の創刊号は編集について不慣れな面や時間的な面もあり、不備な点も多いとは思いますが今後の発行に向けて勉強してまいりたいと思っておりますので、学報についての意見等がありましたら下記の編集委員までお願いします。

なお、教室等に対し別途、学報の愛称を募集する予定ですので、ご協力をお願いします。

### 編 集 委 員

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ○山下 勝 幸 (生理学第一) | 南 口 昌 克 (病院第一課) |
| 吉 田 泰 彦 (英 語)   | 柳 澤 美 穂 (学 生 課) |
| 水 野 文 子 (細 菌 学) | 大 門 喜 信 (総 務 課) |
| 吉 田 克 法 (透 析 部) | 田 中 章 介 (総 務 課) |
| 植 林 みどり (看 護 部) |                 |
| 上 田 恵 子 (母性看護学) | (○印は委員長)        |